

シリーズ2, 庭木に利用する樹種の特徴と管理⑬

—サザンカー—

日本樹木医会富山県支部

樹木医

西村 正史

晩秋から冬にかけての花の少ない時期に花を咲かせる花木にサザンカ(図1)があります。童謡にも歌われ、親しまれています。今回はこの花木を紹介します。

1. 特徴

ツバキ科ツバキ属の常緑樹で、山口県、四国南部、九州地域のシイノキ林の中に生育し、花木の高さは7~8mに達します。日当たりの良い場所が適地ですが、野生種はシイノキの林の中で育っていることから日陰に植えても大丈夫です。しかし、なるべく明るい場所に植えるようにしてください。自生していない本県でも植栽可能で、花は11月上旬から翌年の1月中旬頃まで咲いており、一重で5、6枚のやや細長い白色の花弁をつけます(図2)。花弁はツバキと異なり、1枚ずつ散っていくのが特徴です。刈り込みに強いので、庭園や生垣等によく利用されます。

園芸品種は江戸時代の元禄から文化文政年間に熊本県など西日本を中心に盛んに作出されました。花は一重だけでなく、半八重や八重咲きなどがあり、花色も白や赤など様々です。

2. 維持管理

庭園や生垣として植栽したい場合は、肥沃な土壌で適度に水もちのよい場所を選んでください。そのような条件でない場所に植栽するとサザンカの成長は徐々に悪くなり、最悪の場合には枯れてしまうこともあります。必ず、土壌改良を実施してから植栽してください。幼苗を植栽した場合、数年の間は寒さに弱いので、防寒対策をとってください。防寒対策を行わずに冬越しをさせた場合、枝枯れを起こした事例がありました。

ツバキの仲間であるため、チャドクガの幼虫による葉の食害がよく発生します。この被害は食害だけでなく、人がこの虫に直接接触ったり、虫がいなくても葉に残っている毒毛に触ったりするだけで、かぶれやかゆみ等の被害が発生します。幼虫は葉裏に集団でいますので、発見次第、葉ごと取り除いて、埋めるなり、踏みつぶすなりしてください。被害葉を取り除くことが

できない場合は、スミチオン乳剤の1000倍液、STゼンタリー顆粒水和剤(1000倍液)、GFオルトラン水和剤の1500倍液を撒布してください。スプレー式の園芸用キンチョールEを噴霧する方法もあります。また、カイガラムシの被害とカイガラムシの分泌物に寄生するすす病の被害(葉や枝が黒っぽくなります)もよく発生します。これらに対応するためには、カイガラムシを対象にマツグリーン液剤2(250倍液)、アブロードフロアブル(1000倍液)を撒布してください。



図1 サザンカ(2014.11.19に撮影)



図2 サザンカの花(2014.11.19に撮影)

※写真は富山県中央植物園で撮影したものです。